

BARÁTSÁG

バラッチャーグ(友情)

日本ハンガリー友好協会会報

2023年1月5日発行

発行所: 日本ハンガリー友好協会

〒141-0022 東京都品川区東五反田5-28-11

クレール五反田609号

TEL: 03-3473-9870 FAX: 03-3440-9495

<http://www.jpnhun.org>

No.175

2022年度総会、懇親会開催される

2022年6月11日(土)12時より四谷の主婦会館プラザエフにおいて2022年度総会が開催されました。コロナ禍のため2020年度、2021年度は書面表決でしたので3年振りの開催となりました。出席者数は3月末現在の総会員数439に対して委任状を含めて164でした。総会では議長に鍋倉理事長を選出し、2021年度活動報告と決算報告、2022年度活動方針と予算案が審議され全て承認されました。また理事19名、監事2名(別記)が選出されました。鍋倉理事長は理事を退任、新任理事として北村幸久氏が選出されました。総会後の理事会において新理事長に清水祥之氏が選出されました。



☞総会に続いて会場を地下2階クラルテに移し、瀬川常務理事の司会で懇親会を開催しました。急用で欠席の河野会長に代わり秘書の甲賀氏が挨拶されました。また、ハンガリーのことわざ「逃げるは恥だが役に立つ」が題名のドラマの競演がきっかけで結婚された新垣結衣さんを2019年の外交関係開設150周年記念メインパーソナリティになっていただくため、尽力されましたが残念ながら叶わなかったことなどお話しされました。



☞続いてパラノビチ大使より、カリコー・カタリン氏がコロナワクチンを開発された功績がたたえられ日本国際賞を受賞されたこと、ルービック・キューブの発売40周年記念展を3年連続開催したこと、6月末までV4の議長国として活動されたこと、ウクライナ難民受け入れや、ブダペストで世界水泳を開催することなど、幅広いお話をされました。



☞ごあいさつの後、勲章の授与式が行われパラノビチ大使より当協会顧問の雨宮一正氏に騎士十字功労勲章が授与されました。雨宮氏は「友人の誘いで1970年夏に初めてハンガリーへ行った。今では生まれ故郷のような場所。国際交流ができて嬉しかった。」と挨拶されました。

☞今年度の理事長交代にともない、退任される鍋倉前理事長と着任される清水新理事長の2人がそれぞれ挨拶されました(2頁に新理事長挨拶を掲載)。



☞コンサートでは松本絃佳さんのヴァイオリンの演奏を楽しみました。バッハやバルトークの作品など4曲を演奏。アンコールでは皆さんのテーブルを回りながら、モンティのチャールダッシュを演奏され、小学生のころから何度か当協会でも演奏されご存じの方も多く、大人になりすっかりプロの貫禄も出た松本さんの写真を撮りながら素晴らしい演奏を楽しみました。



☞コロナ禍での懇親会の為、パーティションで区切られたテーブルに着席し、用意されたお弁当とワインを頂きました。立食ではない分静かな懇親会となりましたが、久しぶりの対面形式のパーティーに旧交を温めながらの楽しいひと時となりました。来年の新年会でまたお会いすることを約束しながら、皆さん家路につきました。

清水新理事長就任挨拶



新年明けましておめでとうございます。今年こそはコロナ禍から解放された日常が戻ってきて欲しいと願っております。

昨年6月に理事長を拝命いたしました清水祥之でございます。大変光栄に存じ上げますとともに、責任の重さに身の引き締まる思いです。精一杯務めてまいりますので、会員並びに関係の皆様方には倍旧のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

ハンガリーと私の結びつきは17年前に遡ります。2005年11月に立ち上がりました日本・ハンガリー協力フォーラム、いわゆる賢人会議をサポートさせていただいたのがご縁のはじまりです。その後、両国間の外交関係開設140周年事業の目玉として、当時衆議院議長でいらっしゃいました河野洋平会長のご提唱でエリザベト橋のライトアップ事業が立ち上がり、募金活動のお手伝いをいたしました。その頃ハンガリーに駐劄され、種々ご指導いただいたのが前理事長の鍋倉眞一大使でいらっしゃいます。

今後につきましては、河野会長のご指導の下、パラノビチ・ノルバート大使のご協力も得て両国の民間交流の益々の促進に努めてまいります。2019年に来日されたオルバーン・ヴィクトル首相の経団連への表敬訪問をフォローアップすることを目的に、パラノビチ大使のご尽力で経団連のヨーロッパ地域委員会所属企業を中心に当協会も協力して定期的な意見交換会が立ち上がっております。

こうした交流を従来からも多大なご協力をいただいております城西大学等との連携を基に、文化・学術面にも拡大してまいります。昨年9月に来日されたチャーク・ヤーノシュ文化・イノベーション担当大臣からも当協会の取り組みにご賛同をいただきました。

以上、就任のご挨拶とさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

2022年度総会

2022年6月11日、2022年度総会が開かれました。報告・収支は3, 6, 7頁をご覧ください。総会では7頁の活動方針にあるように、コロナ後の活動を活性化させようと、①新年会の開催、②サークル活動の支援、③ハンガリー語講座を支援、④ホームページの充実、⑤ブログやメールの活用、⑥後援依頼事業の後援、⑦対面イベント再開検討、⑧会報の発行等が了承されました。皆様の活躍を支援致します！



2022年度 新任役員 (敬称略、同一役職者はあいうえお順)

会長: 河野洋平 **副会長:** 北村幸久(新任 理事兼務)、小林研一郎、間宮芳生 **理事長:** 清水祥之(新任)
専務理事: 猪谷晶子 **常務理事:** 江寄正邦、瀬川隆生 **理事:** 東孝江(事務局次長兼務)、岡島有孝、
 桑栄美子、後藤田夫規子、佐々波浩一(事務局長兼務)、佐藤地、佐藤義雄、重松聡、田崎龍一、田中純子、
 萩原淑子、羽場久美子、向山毅、山川秀明 **監事:** 内藤貴昭、松尾守之 **理事補佐:** 中谷治芳
顧問: 雨宮一正、伊藤和矢、堤功一、鍋倉眞一(新任)、福井直敬

2022年度日本ハンガリー友好協会総会報告

2021年度 活動報告 (2021年4月1日～2022年3月31日)

2021年度は新型コロナ・ウイルス感染症の影響で、多くの対面行事が中止となりました。

年次事業

(1) 2021年度総会報告

2021年度総会は新型コロナ・ウイルスの影響で、葉書を使った、会員の議決権行使となりました(2021年8月15日締切)。議案としては①2020年度活動報告、②2020年度収支報告、③2021年度活動方針、④2021年度予算案、⑤協会規約の見直し、⑥規約第28条の特定業務委託契約における報酬の基準に関する決議案、⑦法人会員の推薦した理事に関する総会決議案、⑧2021年度理事候補が出されました。

議案書発送総数352通、返信のあった議決権行使書(葉書)有効数133通で、⑥に反対が1通あった他は、全て全議案に賛成となり、承認されました。その後オンライン理事会にて2021年度新役員が選任されました。

日本ハンガリー友好協会 2021年度役員

(敬称略、同一役職あいうえお順)

会長：河野洋平 副会長：小野元之、小林研一郎、間宮芳生 理事長：鍋倉眞一
専務理事：猪谷晶子 常務理事：江寄正邦、
衆栄美子、瀬川隆生 理事：東孝江(事務局次長兼務)、岡島有孝(新任)、小平功、
後藤田夫規子、佐々波浩一(新任 事務局長兼務)、佐藤地(新任)、佐藤義雄(新任)、重松聡、
清水祥之、田崎龍一、田中純子、萩原淑子、
羽場久美子、向山毅、山川秀明(新任)、監事：
内藤貴昭、松尾守之 理事補佐：中谷治芳
顧問：雨宮一正、伊藤和矢、堤功一、福井直敬

(2) 新年会

2022年2月5日の予定を5月14日に延期して駐日ハンガリー大使館にて開催を予定しておりましたが、こちらもコロナの影響で中止になりました。

広報活動

(1) 会報「BARÁTSÁG(友情)」の発行

会報は以下の通り発行いたしました。

NO.173号発行 2022年1月5日

NO.174号発行 2022年6月9日

(2) 友好協会ホームページの充実

会報は、毎回ホームページにアップし、誰でも閲覧できるようにしました。東京五輪ハンガリー選手団に関する記事やイベント情報も充実させました。岩崎悦子さんの蔵書目録を掲載しました。ブログでは詳細なハンガリー関係情報を紹介しました。

ハンガリー語講座

2022年3月現在、中級コース(毎週火曜日)6名、研究コース(隔週金曜日)4名、計10名の方々が受講中です。講師はバログ・マルトンさんと大島一さんをお願いしています。新型コロナウイルス感染拡大のため、中級コースはオンラインレッスン、研究コースは事務所でレッスンを及び書簡とメールによる添削レッスンとなっています。

後援名義使用依頼

当協会の名義後援依頼は写真展1件及び音楽関係の公演4件の計5件あり、運営委員会で検討し、全件承認しました。

協会の会員数

新規入会は、個人会員10名、法人会員3団体(住友生命様、双日様、アルプスアルパイン様)、サークル会員1団体(ハンガリーワイン&パーリンカ協会様)となっています。

2021年3月末の会員数は、個人会員328名、家族会員91名、法人会員14団体、サークル会員6団体となっています。

各種会議等の開催

【総会】

2021年7月に書面による開催

【理事会】

2021年6月15日 第1回理事会(オンラインにて開催)

2021年9月10日 第2回理事会(オンラインにて開催)

【運営委員会】

2021年5月27日(協会事務所にて開催)

2021年11月5日(オンラインにて開催)

【広報委員会】

2021年10月5日(オンラインにて開催)

(収支報告、予算案は6,7頁)

ハンガリーフェスティバル in 愛知 「ハンガリーの歌声-歴史と音楽」

2022年5月29日(日)、名古屋国際センターホールにおいて、3年ぶりに「ハンガリーフェスティバル in 愛知」が開催されました。

第一部では、名古屋市立大学大学院人間



文化研究科教授の山本明代先生による「1956年のハンガリー革命と難民学生の来日」と題した講演が行われました。



第二部は、ソプラノの中村真紀さん、ピアノの富田智容子さんによる「ハンガリーゆかりの歌曲の調べ」と題したコンサートが行われ、リスト、コダーイ、レハールといったハンガリーの作曲家たちの作品が披露されました。



会場にはハンガリー南部の町ペーチにあるセント・モール学園の子供達が描ってくれた絵とハンガリー刺繍サークルの

作品の数々も展示されました。

2年あいてしまいましたが、来場者は165人のほり、コロナ禍ではありましたが、万全の感染対策を講じて盛会のうちに終えることができました。

愛知県ハンガリー友好協会 早稲田みか

ハンガリーから弦楽の調べ ～シゲティ弦楽四重奏団と仲間～



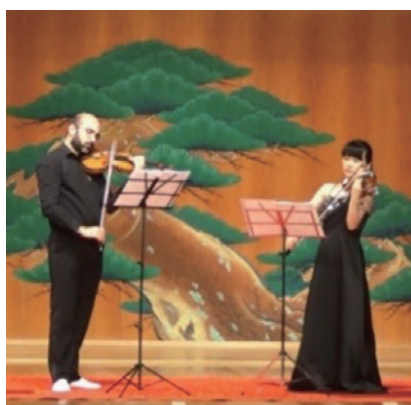
©コンチェルティナーGINZA

2022年6月30日(木)GINZA6内の観世能楽堂でコンチェルティナーGINZA主催

によるシゲティ弦楽四重奏団のコンサートが開かれました。

冒頭、アディ・エンドレの詩「ドナウの告白」、*“私たちのドナウ、この老いた狐は 秘密を隠していると、私は知った。”*に始まる詩の朗読(長尾春花)の声が静かな会場に響き、四人の演奏家:長尾春花(ヴァイオリン～会報前号でご紹介しました)、ルドマーニ・デーネシュ(ヴィオラ)、ロージャ・リチャード(チェロ)、アレクサンドル・ディムチェフスキ(ヴァイオリン)が白足袋を履いて能舞台に登場。

プログラム最初はバルトーク:弦楽四重奏曲第2番、コダーイが「人生のエピソード」と称した三楽章の演奏が、アディの「暗い海のほとりで」の朗読をバックに始まりました。現代へのメッセージを感じ取られる音と詩が融合した世界が広がりました。



次は、コダーイ:ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲、第一楽章。民謡収集旅行直後の作品でコダーイの馴染みのある

旋律が味わえました。他にプロコフィエフの2つのヴァイオリンのためのソナタ第4楽章、シューベルトの弦楽四重奏曲、第14番が演奏されました。

能楽堂で聞くハンガリーからの弦楽の調べ、クラシック音楽ファンと思われる多くの聴衆の方たちは堪能し、享受されていました。音楽と文学からハンガリーを知る機会がこれからも増えればと願います。

何故アンサンブル・ポエム

-小林研一郎先生、井崎正浩先生、田中義具理事長のご指導と交流-



アンサンブル・ポエムとは、私の主催する小編成の音楽アンサンブルのことで

す。1994年に私の住む東京西部の秋川流域に25団体ほどある合唱団からメンバーをピックアップして「秋流混声合唱団」を編成し、私がその団長として音楽交流の旅に初めてハンガリーに行ったときに、12名のアマチュアの音楽アンサンブル「アンサンブル・ホーピラーグ」と運命的な出会いをしました。

「ポエム」とは、縦横無尽にアンサンブルする「ホーピラーグ」にあやかってつけた名前です。その見事なアンサンブルに度肝を抜かれた私は、私が今やっている合唱は何なのか？ゼロから作り直さなければならぬ。合唱の原点は小編成のアンサンブルにありだとの思いが募り、当時親交のあった小林研一郎先生にその思いをぶつけました。先生は、浜中さんの言う通りだよと賛同して下さって、お弟子さんの富澤裕先生を紹介され、富澤先生の熱血指導でポエムが今日あるしっかりした基礎が築かれています。

並行して取り組んでいたオーケストラと歌う合唱団イン西東京で大作曲家のオーケストラ付きの合唱作品を望み得る最高の指揮者で演奏したい渴望が実を結び、ブダペスト国際指揮者コンクール優勝の井崎正浩先生で長きに渡り体系的、計画的にご指導を仰ぎ最高の学びをしました。

2008年、ハンガリー音楽交流の旅のフィナーレにブダペストのアッシジ聖フェレンツ・プレバーニア教会でソルノクのオーケストラ、合唱団と私たちが井崎先生の指揮で混然一体となって、ドヴォルジャークのスタバート・マーテルを歌い上げた感動は、私の合唱人生の最高の誇りです。

こうして私がハンガリーを合唱の故郷として取り組み続けられている陰に一人の心の師がいました。故・田中義具前理事長その人です。



田中理事長は、井崎先生のコンクール授賞式に大使として出席された方で、そのご縁を大切にされ、私たちの

活動を励まし続けて下さり、演奏会には、薫夫人共々必ず駆けつけて、労いの言葉を掛けて下さいました。私は未だに理事長の急逝が信じられず、その温顔が忘れられません。そして最後に思いだけの私がこれだけの成功に導けたのも、妻富子の何とかして私の思いを実現させようと陰の苦勞を全部背負ってくれた支えなくしてはありえませんでした。今ポエムは、若き俊英、糸原裕介先生を新指揮者に迎え、ホーピラーグにどこまで迫れるか、挑戦を続けています。 浜中 勝

ハンガリーワイン&パーリンカ協会 第1回総会・懇親会を開催

魅力あふれるハンガリーのお酒を、日本で多く見かけ、楽しめるようになることを願い発足した協会です。長い歴史を持つ個性ある素晴らしいワイン、ハンガリー人が愛するフルーツの蒸留酒パーリンカなど、日本ではまだ希少な存在であるお酒たちを、多くの方と共有できることを目指し活動しています。

各月でセミナーを開催し、会員と輸入業者との交流を図ります。今年6月にはハンガリー大使館で、第1回総会と懇親会を開催しました。

私たちが目指すのはプロの育成ではありません。ワインやパーリンカを知らないという方に分かりやすく説明します。美味しいお酒を飲みながら、一緒にハンガリーのお話をしませんか。 代表理事 東孝江 同 浅野衣美



2022年度総会 2021年度収支報告

【収入の部】

(単位：円)

	年間予算	年間実績	備考
前期からの繰入	6,679,145	6,679,145	
当期収入	会費(個人・サークル)	1,100,000	1,033,000 会費納入、若干の未達
	入会金	10,000	20,000 新入会員10名
	カンパ	150,000	176,500 カンパに感謝
	法人会費	1,550,000	1,750,000 新規法人会員に感謝
	県協会協賛金	220,000	200,000 千曲市友好協会2万円未収
	広告収入	120,000	0 会報発行1回
	国内事業収入	500,000	413,000 事業収入のみ先行
	雑収入	100,000	10,027 ハンガリー語講座1ヵ月のみ
	調整	0	0
	計	3,750,000	3,602,527
収入合計	10,429,145	10,281,672	

【支出の部】

(単位：円)

	年間予算	年間実績	備考
当期支出	印刷郵送費	800,000	571,451 会報発行1回のみ
	国内事業費	600,000	0 国内事業未実施(5月実施予定)
	事務所経費	500,000	392,629
	業務委託費	400,000	370,000 新事務局長業務委託費8月より発生
	家賃	840,000	864,490 次年度分一部先払い(修理費)
	事務用品費	20,000	12,260
	交通費	20,000	48,282 新事務局長交通費増
	会議費	10,000	0
	IT関連費	20,000	0
	会報ホームページ関連	50,000	0
	予備費	20,000	62,670 ハンガリー選手団へ土産寄贈
	寄付(150周年事業費)	0	0
	計	3,280,000	2,321,782
	当期収支	470,000	1,280,745

次期繰り越し 7,149,145 7,959,890

現預金残高

2022年3月31日

ゆうちょ銀行	5,369,096
みずほ銀行五反田支店	2,528,760
みずほ銀行九段支店	61,725
小口現金	309
現預金合計	7,959,890

別会計 銀行残高

緊急人道支援基金	525,793
----------	---------

注記：

- ① 広告料収入：前年度に余分に入金した6万円を返済。その後会報一回発行に対する6万円を入金
- ② 収益及び費用の計上基準：発生主義ではなく、現金の移動に伴う現金主義で作成
- ③ 協会事務所家賃：事務所照明の修理が発生(24,490円)。協会で支払ったが2022年度の家賃の一部に充当
- ④ 判明している未収入金：以下に表記
未収金 千曲市友好協会 ¥20,000 但し、4月15日に入金済み

2021年度収支報告書及び関係書類を精査した結果、いずれも適正かつ正確であったことを認めます。

2022年5月16日 監事 松尾守之 ㊞
監事 内藤貴昭 ㊞

2021年度ハンガリー語講座 特別会計報告(2021.4.1~2022.3.31)

【収入の部】

(単位：円)

	予算	実績	備考
前期からの繰越	1,034,995	1,034,995	
当期収入	受講料	700,000	965,250
	教科書代入金	0	0
	雑収入	0	10 預金利息
	計	700,000	965,260
収入合計	1,734,995	2,000,255	

【支出の部】

(単位：円)

	予算	実績	備考
当期支出	講師料	726,000	759,000
	事務用品	2,000	0
	クラス研修費	80,000	0
	事務所使用料	100,000	10,000 事務所使用は年間4回のみ
	教科書代	0	0
	雑費	10,000	7,535 振込手数料
	小計	918,000	776,535
	当期収支	-218,000	188,725

次期繰り越し 816,995 1,223,720

期末預金残高

銀行預金口座	1,223,063
小口現金	657
現預金合計	1,223,720

注記：

- 収益及び費用の計上基準：発生主義ではなく、現金の移動に伴う現金主義で作成
- 2021年度収支報告書及び関係書類を精査した結果、いずれも適正かつ正確であったことを認めます。

2022年5月16日 監事 松尾守之 ㊞
監事 内藤貴昭 ㊞

日本ハンガリー友好協会 2022年度活動方針

新型コロナウイルス感染症の収束状況に応じて、開催の可否又はオンライン開催を判断する活動になると思われます。

- ①新年会を開催する。
- ②サークル活動を支援する。
- ③ハンガリー語講座を支援する。
- ④ホームページの充実と有効利用を図る。

- ⑤協会ブログ及び電子メールにより、情報の迅速な伝達を図る。
- ⑥後援依頼事業の内容を精査し、妥当な事業への後援を行う。
- ⑦新型コロナウイルス感染症の収束状況に応じて、対面イベントの開催を検討する。
- ⑧会報を発行する。

2022年度予算案

【収入の部】

(単位：円)

	予算	前年度実績	備考	
前期からの繰入	7,959,890	6,679,145		
当期収入	会費	1,033,000	個人、家族、サークル	
	入会金	20,000		
	カンパ	176,500		
	法人会費	1,750,000		
	県協会協賛金	220,000	5協会・支部	
	広告収入	120,000	0	会報への広告掲載スズキビジネス
	国内事業収入	900,000	413,000	総会及び新年会
	雑収入	40,027	10,027	ハンガリー語講座事務所使用料、金利
	調整	0	0	
	計	4,259,527	3,602,527	
収入合計	12,219,417	10,281,672		

【支出の部】

(単位：円)

	予算	前年度実績	備考	
当期支出	印刷郵送費	800,000	571,451	会報発行、郵送料(発行2回)
	国内事業費	1,450,000	0	新年会1回、総会1回、昨年度新年会返金
	事務所経費	400,000	392,629	水道、電話、インターネット、アルバイト料等
	業務委託費	500,000	370,000	12か月分(2021年度は8か月)
	事務所家賃	815,510	864,490	24,490円先払い
	事務用品費	30,000	12,260	
	交通費	60,000	48,282	
	会議費	10,000	0	
	IT関連費	20,000	0	
	会報ホームページ関連	0	0	
	予備費	50,000	62,670	
	寄付(150周年事業費)	0	0	
	計	4,135,510	2,321,782	
	当期収支	124,017	1,280,745	

次期繰り越し	8,083,907	7,959,890
--------	-----------	-----------

2022年度ハンガリー語講座 特別会計予算案

【収入の部】

(単位：円)

科目	予算	前年度実績	備考	
前期よりの繰越	1,223,720	1,034,995		
当期収入	受講料	858,000	965,250	火曜クラス5人、金曜クラス3人
	教科書代入金	0	0	
	雑収入	10	10	預金利息
	収入計	858,010	965,260	
収入合計	2,081,730	2,000,255		

【支出の部】

(単位：円)

科目	予算	前年度実績	備考	
当期支出	講師料	792,000	759,000	66,000/月
	事務用品費	0	0	
	クラス研修費	0	0	
	事務所使用料	40,000	10,000	今年度後半から使用見込み
	教科書代	0	0	
	雑費	10,000	7,535	振込手数料
	計	842,000	776,535	
当期収支	16,010	188,725		

次期繰り越し	1,239,730	1,223,720
--------	-----------	-----------

私とハンガリー



私が初めてハンガリーを訪れたのは、チェコスロバキアのブラティスラバで開催された国際木彫シンポジウムに参加し、そこで出会ったハンガリー彫刻家ベンチック・イシュトヴァーンの招きでブダペストを訪れたのが始まりでした。

それは1967年、いわゆるプラハの春の前年で、今思い起こせばまだ自由な空気が漂っていた東欧でした。それでも、今とは全く違う国の体制で、外国から来た人には監視の目もあり、最寄りの警察にパスポートを預け、宿泊先を届け出るといったものでした。けれども芸術活動は、自由なしかも斬新な表現で活発な交流があることに驚き、ルーツは同じ東洋であることが、より親しみを感じた理由だったかもしれません。それ以来ハンガリーが私にとって魅力ある遠くて身近な国になりました。

1975年ナジャタードの木彫モニュメント、「メディテーション瞑想」は、2ヶ月滞在して制作した原木のオーク材3本を切り出して組んだ全長6メートルの流線形の作品です。この作品は日本の鳥居をイメージしたものであり、また刀の反りから得た力強さを表現したものです。滞在中のスケッチは後に、徳永康元『ブダペストの古本屋』『ブダペスト回想』の挿画に使われました。



1977年ペーチ駅前に、モニュメント「対話」を制作。その制作活動に美術家ユニオンのチェンケ・エヴァに興味を持っていただいたことをきっかけとして2年後の1979年には美術家ユニオン向けのモニュメント制作の指導とワークショップを開催する運びとなりました。1984年ヴィラーニ石彫制作の石切場に「日本庭園」を日本の作家3名の協力を得て作成。日本庭園の完成を祝い1987年日本

ハンガリー友好協会の旅行団がハンガリーを訪問。ペーチのモニュメント「対話」と記念撮影後、日本庭園では浴衣を着用し盆踊りを披露。ヴィラーニはハンガリーでも有数のワインの産地でもあり村民と美味しいワインを飲み交わした光景を、ヴィラーニワインを飲むたびに思い出します。



ハンガリー友好協会の旅行団がハンガリーを訪問。ペーチのモニュメント「対話」と記念撮影後、日本庭園では浴衣を着用し盆踊りを披露。ヴィラーニはハンガリーでも有数のワインの産地でもあり村民と美味しいワインを飲み交わした光景を、ヴィラーニワインを飲むたびに思い出します。

それは1989年から10年間にわたり私のルーツでもある長野県富士見高原での「国際彫刻シンポジウム」です。第一回開催に長年交流を深めたハンガリー作家ベンチック・イシュトヴァーンを招聘することができました。その年に、ハンガリーから始まった東欧の改革は後に、ベルリンの壁崩壊に繋がりました。そのニュースを日本でベンチックと食い入るように見たことを思い出します。彼が帰国の途につく空港に向かう車内で「私は来た時とはまるで違う我が国に帰ることはなんと素晴らしい」と言ったその言葉が耳に鮮明に残っています。

1986年、第一回日本ハンガリーフェスティバルが日本で開催されハンガリーの作家が多数来日し展覧会を開きました。当時は来日した作家の宿泊先は会員の個人宅であり公私共に交流の機会を得ました。今までの経験や体験を活かし私の念願であった交流と制作の場であるシンポジウムを実現することができました。それは1989年から10年間にわたり私のルーツでもある長野県富士見高原での「国際彫刻シンポジウム」です。第一回開催に長年交流を深めたハンガリー作家ベンチック・イシュトヴァーンを招聘することができました。その年に、ハンガリーから始まった東欧の改革は後に、ベルリンの壁崩壊に繋がりました。そのニュースを日本でベンチックと食い入るように見たことを思い出します。彼が帰国の途につく空港に向かう車内で「私は来た時とはまるで違う我が国に帰ることはなんと素晴らしい」と言ったその言葉が耳に鮮明に残っています。



1991年失われたレーニンの台座に彫刻を作るプロジェクトを企画・制作。1997年には、教鞭をとっていた九州女子短期大学とペーチのパノニウス大学との交換留学生制度を設立しました。2006年には日本ハンガリー友好協会設立50周年を記念し、大使館にモニュメントを設置することができました。

思い起こせば私の長い人生の大半は、ハンガリーと共にあったと思います。多くの人々に温かく受け入れていただき、このような誉ある賞をいただけたと思います。誠に感謝いたします。

雨宮一正

『世界のくらし ハンガリー』取材



日本の小中学生に向けた書籍『世界のくらし ハンガリー』(羽場久美子先生ご監修, ポプラ社)制作のため、2022年7月と10月にハンガリーの各地を取材・撮影しました。現地の学校やご家庭、牧場、ワイナリーなどに伺い、そのくらしぶりや教育方針、食文化、SDGsなどについて、たくさんの方にお話を聞きました。合計1か月間におよぶ取材で印象的だったのは、日本の小中学生へのメッセージのなかに、必ず「自然」という言葉が出てきたことです。そのいくつかをご紹介します。

「人間はここにいる馬や羊と同じ存在で、自然の一部なんです。人間が地球上で最高の存在だと考えてしまうと、自然と一緒に生きることができなくなります」(センテンドレ島の牧場経営者マジアル・ガボル氏)



「私たちに、古代からつながる音楽の遺伝子が備わっています。何かを学ぶとき、昔は上手な人のやり方を“見て聞いてまねする”ことから始めましたよね。この学校も同じで、先生は自然のまま黙って生徒を見守り、次のステップに進む手伝いをするのが役目です」(オーブダ民俗音楽学校セレーニ・ベーラ校長)

「植え付けたブドウの苗が成長し、実がなり、その実が発酵してワインになるという自然の不思議さに、今でも心が震えるのです」(ワイン醸造所「カールの石」サボー・ジュラ氏)

「本来、自然の一部だった人間は、電気やガス、インターネットなど便利なものを次々と手に入れ、自然から離れていきました。もし今、そのすべてを奪われたら、人はそれに耐えることができるでしょうか。未来は何が起こるかわかりません。だから自然の力強さや恐ろしさ、すばらしさを今の子どもに伝えていきたいのです」(カッシュアイ・アカデミー主宰カッシュアイ・ラヨシュ氏)

私たち日本人が、もしかしたら忘れつつある「自然との正しい向き合い方」を、ハンガリーの方がたに改めて教えて頂いた取材になりました。

書籍プロデューサー 関根淳

リスト・ハンガリー文化センターよりお知らせ



2023年は、「ヴェスプレーム・バラトン」地域が欧州文化首都になります。現在、センターでヴェスプレームと周辺地域、また文化首都のプログラムを紹介する展覧会の他、ハンガリーの伝統衣装が現在どう生かされ、洋服のデザインにどう使用されるかという展覧会、そして音楽と美食のテーマで4つの展示を予定しています。

また、2023年にも10月末にハンガリーフェスティバルを開催予定です。さらに、2022年から「木曜コンサート」を始め、ハンガリー人と日本人の元奨学金生を迎えクラシック音楽室内コンサートを開いてきましたが、2023年にも続ける予定です。是非現地でも御参加下さい。

ナジ・アニタ NAGY Anita 所長 /

Intézetvezető

『中欧・東欧文化事典』のハンガリー項目より

2021年に丸善出版から出された百科事典から、ハンガリーの項目を選んでお伝えしています。今回は、足立純子さんと岡本真理さんをお願い致しました。

<<セセッションの建築様式>>

ハンガリー工芸美術博物館 <https://www.imm.hu/>



アールヌーヴォー（セセッション）とは、19世紀から20世紀への転換期に流行した芸術の総称

です。地域によって呼称が異なり、ハンガリーでは、セツェッショと呼ばれています。

セセッションは、あらゆる芸術分野で展開しました。建築では工芸と連動し、建物の外観と内装をひとつのテーマで統一する「総合芸術」を目指すことが奨励されました。造形は植物を思わせる有機的な曲線が知られています。また、19世紀末に次々に開発された新素材も積極的に導入する気風がありました。

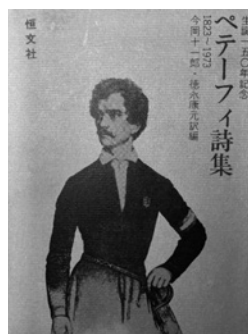
ハンガリーは、16世紀以来ハプスブルクの支配下にあり、1867年「妥協（キエジエゼーシュ）」によって一応の独立を勝ちとります。そうした背景から、建築における「ハンガリーらしさ」の表現に関心もたれたのが、ハンガリーのセセッション建築の特徴です。代表的な作品として、ブダペストのハンガリー工芸美術博物館があります。スペインのガウディと並び称される建築家レヒネル・エデンと相棒のパールトシュ・ジュラが手掛けたこの博物館は、建国千年祭に合わせて1896年に開館しました。

外観はつりがね型のドームや、黄色の稜線飾りのある緑の屋根が目を惹きます。壁面や玄関ホールの天井などには、民族衣裳に見られる鮮やかな色彩の植物モチーフが採用されました。室内では東方風な多弁形アーチがホールを囲んでいます。レヒネルが「ハンガリー様式」と呼ぶこうしたデザインは当初「ジプシー王の宮殿」とも揶揄されました。建築に用いられたセラミック素材はジョルナイ製で、都市のばい煙による汚れを防ぐために施釉されています。近年の化粧直しで、建築はさらに輝きを増しています。是非皆様も、訪れてみてください。 足立純子

<<民族の英雄ーペテーフィ・シャーンドル>>

(ペテーフィの項目より抜粋)

ハンガリーでペテーフィは、「詩人」の代名詞ともいえる存在である。



「起て、ハンガリー人よ/ 祖国が呼んでいる」

「ハンガリー人の神に 我らは誓う/もうこれ以上奴隷とはならないと」

毎年3月15日のハプスブルクからの独立記念日が近づくと、幼稚園の子供たちまでもが、この

ペテーフィの<国民の歌>の冒頭を暗誦する姿が見られる。素朴な力強い言葉で大平原の風景や人々への愛情を謳い、革命の詩人として自由と独立に向けて人々を鼓舞し、26歳という若さで戦場に散ったペテーフィの生涯はまさに「国民詩人」という言葉にぴったりとあてはまる。

詩人ペテーフィは、1823年1月1日、ハンガリー大平原の小さな町キシューケーレシュで肉屋の長男として生まれた。…高校生になる頃には、詩や演劇に強い関心を示すようになっていた。

ペテーフィが学生時代を過ごした頃のハンガリーでは、ハプスブルク帝国の支配下でハンガリー人の民族的主権を求める動きが次第に強まりを見せていた。同時に、従来権威を持っていたラテン語やドイツ語ではなくハンガリー語を政治・行政から教育・文化活動まで広い範囲で使用したいという民族的要求が高まりつつあった。

1848年3月、ペテーフィら若い詩人たちは、拠点とするペシュトのカフェ・ビルヴァクスに集まり、帝国政府に対するハンガリー国民の要求となる「12か条の要求」を書き上げた。そして彼の詩<国民の歌>と共に何万人という群衆にばらまかれた。

ペテーフィと若い文学仲間の多くはハンガリー国防軍に入隊し、戦場に赴いた。そして彼は翌1849年7月31日、トランシルヴァニアのシギショアラ郊外での戦いで命を落とした。革命におけるペテーフィの輝かしい活躍と早すぎた死は、ハンガリー人の心の中に刻み込まれた。その存在はハンガリー文学の中で「ペテーフィ崇拜」とも言われる特別なものとなり、生涯に残した1000篇を超える詩とともに、今日まで愛され続けている。

岡本真理

新年会のご案内

2023年日本ハンガリー友好協会新年会 ハンガリー大使館で開催!!

2年間開催できなかった新年会を3年振りになる2023年2月4日(土)午前11時半(受付開始午前11時)から、駐日ハンガリー大使館で開催致します。大使館のシェフが腕を振るう特製のハンガリー料理をご賞味ください。ハンガリーワイン並びに音楽とともに新春のハンガリーの一日をお楽しみください。

ご参加頂ける方は 会員のみ とさせていただきます。

事前登録申込制と致しますので、

当日受付で申込み(振込)後にお手元に届く「参加葉書」を提示願います。

収容人数に制約がございますので、早めの申込をお願い致します。1月20日を申し込みの締め切りとします。締め切り日以前でも申込者数が定員に達しますと、打ち切りとさせていただきます。詳細は同封の別紙案内をご覧ください。お問い合わせは原則メール(jpnhun@gmail.com)にてお願い致します。郵便、FAX、電話(留守電)では回答に日数を要することご承知おき願います。新型コロナウイルスの感染状況によっては開催が中止となる可能性もあることご承知おき願います。

前回会報以降のカンパ協力者氏名

2022年5月/猪谷 晶子(東京都)、山田 裕子(埼玉県)、広瀬 恵子(東京都)、田中 純子(東京都)、小柴 恵一(群馬県)、戸塚 厚生(神奈川県)、2022年6月/榎 學(埼玉県)、富本 一久(愛知県)、膳所 博美(三重県)、宮下 洋一(東京都)、高久 圭二郎(埼玉県)、山田 裕子(埼玉県)、山縣 祥子(兵庫県)、小泉 博(富山県)、坂詰 彌彦(東京都)、坂東 俊子(神奈川県)、佐藤 信之(東京都)、鋤柄 直美(神奈川県)、松岡 紀子(神奈川県)、町田 浩一(東京都)、白石 美佐子(東京都)、田中 薫(東京都)、佐藤 昌彦(山形県)、戸塚 厚生(神奈川県)、黒井 順子(北海道)、瀬川 隆生(東京都)、梶山 佳代(茨城県)、黒川 圭子(東京都)、小野寺 喜一郎(山形県)、丸 磐根(東京都)、伊藤 麻紀(東京都)、石坂 政雄(東京都)、梶川 久美子(京都府)、富本 一久(愛知県)、鈴木 律子(神奈川県)、珠玖 幹雄(千葉県)、堤 功一(東京都)、井崎 正浩(東京都)、大澤 一煌(静岡県)、神宮寺 良吉(山梨県)、宮平 良行(東京都)、池田 恒紀(山形県)、折笠 博之(東京都)、2022年7月/吉岡 玲子(東京都)、栗田 裕功(兵庫県)、山崎 孝(東京都)、塚本 博(群馬県)、福井 直敬(東京都)、2022年8月/大梶 俊夫(東京都)、榎 學(埼玉県)、2022年9月/萩原 淑子(東京都)、2022年10月/伊藤 八重子(神奈川県)、毛利 裕昭(東京都)
カンパ頂きましてありがとうございます。金額につきましては、カンパそのものを多とさせて頂きまして、不掲載と致します。

(敬称略)

新規入会者のご紹介(2022年)

7月 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院(千葉県)

9月 山内 聡子(北海道)

8月 株式会社NTTデータ(東京都)

10月 毛利 裕昭(東京都)

(敬称略)

事務局からのお知らせ

原則、水曜日、金曜日の午後には事務局にできるように致しますが、留守が多くなると思います。

ご要望あれば なんなりと電話(留守電機能あり)、ファックス、あるいはE-メールにて事務局宛てにお願い致します。

電話：03-3473-9870 ファックス：03-3440-9495 E-メール：jpnhun@gmail.com

会報・ホームページ・ブログへの記事投稿のお願い

日本全国、海外にお住いの会員の皆様にも楽しんでいただける情報を、ホームページ・ブログで積極的に発信します。ハンガリーに関連する情報やイベントについてご連絡ください。会報は173号よりHPに掲載しています!羽場久美子

ホームページ

<http://www.jpnhun.org/>

ブログ

<https://jpnhun.at.webry.info>

編集後記

2023年新年号をお届けします。2022年半ばよりコロナ禍もようやく落ち着きを見せ、2022年6月久しぶりに総会を開催することができました。大使のご挨拶、雨宮さんの受勲、鍋倉理事長のご勇退と、新・清水理事長のご就任、新理事の選出や、松本さんのヴァイオリンコンサートなどがありました。愛知でも大きな会合が開かれ、おかげさまで今回の会報は、多くの皆様方のご活躍を盛り込むことができました。2023年はさらに交流が進む年となりますよう、皆様のご多幸とますますのご活躍をお祈りしております。 羽場久美子



広報委員会・編集委員会 羽場久美子、東孝江、桑栄美子、萩原淑子、事務局長 佐々波浩一



おいしいを贈る

ESSENCIA

Since 1991



世界三大貴腐ワイン トカイ・アスー・ 6プットニョシュ

深みのある琥珀色で濃厚な蜂蜜やドライプラム、ローストアーモンド、チョコレートの香りが感じられます。

濃厚な甘みが穏やかな酸とアルコール分にバランスよく支えられ、樽由来のタンニンが熟成感を伴いながら余韻の味わいへと導きます。

フォアグラのテリーヌ、ブルーチーズ、チョコレートケーキなどによく合います。

アカシアの森からの贈り物 ハンガリー アカシアはちみつ

広大で豊かなアカシアの森で採れたハンガリーのアカシアはちみつは、「はちみつの女王」と呼ばれています。クセがなく上品で繊細な味と香り。パンやヨーグルト、料理はもちろん、ドリンクの甘味料としてもおすすめです。



DR HONEY
食のオスカー
「グレート・テイスト・アワード」受賞!

アカシアの花

スズキビジネス 特販事業部

〒431-0201 静岡県浜松市西区篠原町 21339
TEL.053-440-1098 FAX.053-448-9541
ご希望の方に通販カタログ「Essencia」をお届けします。



おいしいを贈る

ESSENCIA

<https://hungary-wine.com/>

ハンガリーのワインとはちみつにこだわり約30年。
ハンガリーワインの取り扱い種類は国内最大級!



アクセスはこちら▲